

山梨大学における入学者選抜改革の取組

「2020 年度以降の入学者選抜の基本方針」
(第 3 報 別冊)

山梨大学の入学者選抜方針
(アドミッションポリシー)

2019 年 3 月改訂

山 梨 大 学

山梨大学の入学者選抜方針（アドミッションポリシー）

《山梨大学が求める人物像》

山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」の標語の下、地域の知の拠点として、専門性をもって世界で活躍できる人を育てることを目指しています。これを実現するため、学部・学科などの教育プログラムには、その修了に必要な教養、汎用能力、専門能力をすべて身につけられるカリキュラムが編成されています。本学では、これらのカリキュラムを知的好奇心をもって継続的・主体的に修得して卒業し、専門分野に関する高度な能力を通じて社会に貢献する志をもつとともに、入学時において以下のような基礎的な資質能力を有する人物を国内外から受け入れます。

《入学者に求める資質能力⁽¹⁾》

高等学校で履修する、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語等について、内容を理解し、高校卒業程度の知識を有している人その他、各教育プログラムの学修に必要な資質能力（思考力・判断力・表現力など）を有する人

(1) ここでは入学試験で評価できる項目のみが挙げられており、順法精神など、社会通念上大学生が当然備えているべき項目までは記載していません。

【教育学部】

育成目標 【豊かな人間性と教育文化を創造する教員の育成】

本学の入学者受け入れ方針に加え、教育に対する情熱と課題を解決する高い実践力を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する教員の養成を目指します。

そのために、協働性や生涯にわたる学びへの意欲と能力を育成し、人間・社会・自然等に関する幅広い教養と教育についての高度な実践力と専門性を持った教員を養成する教育・研究を行います。

求める資質・能力・人物像

教育学部では教員を目指す強い意志を持った人を求めています。そのために、以下のような資質・能力を持つ人の受験を期待します。

- ・ 子どもの育ちや学校教育について高い関心を持てる人
- ・ 自ら深く学ぶために課題を見出すことができる人
- ・ 課題の解決に向けた探求の努力を継続する意欲のある人
- ・ 多様な考えの人たちと協力できるコミュニケーション能力や協調性を備えた人

入学前に学習しておくことが期待される内容

本学部における教育は、高等学校等で修得する各科目に関して基礎的な学力を有することを前提に行われます。また、論理的な思考力、自分の考えを適切に表現できる力、コミュニケーション能力、及び各分野への関心や探究心を備えておくことを期待します。各教科・科目においては、広く以下のような内容を心がけて学習しておくことが重要です。

- ・ 国語については、現代文、古文、漢文における基礎的な知識と読解力
- ・ 地理歴史・公民については、履修した各科目における基礎的な知識と社会的思考力
- ・ 数学については、履修した各科目における基礎的な知識と数学的思考力
- ・ 理科については、履修した各科目における基礎的な知識・技能と科学的思考力
- ・ 外国語については、外国語による聞く、読む、話す、書くことに関する基礎的な知識・技能
- ・ 情報については、情報処理または問題解決に関する基礎的な知識・技能
- ・ 家庭については、家庭生活に関する基礎的な知識・技能
- ・ 音楽については、音楽に関する基礎的な知識と表現技能
- ・ 美術については、美術に関する基礎的な知識と造形能力
- ・ 保健体育については、運動と健康に関する基礎的な知識・技能

学校推薦型選抜Ⅰ（山梨県の小学校教員志望者推薦入試）の基本方針

この選抜は新たに学校教育課程全体で募集人員を定めて実施するもので、山梨県の小学校教員を志望する受験生を対象とします。

本選抜では、小論文と面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等进行评估します。小論文では、小学校教育や児童の発達過程に関わる論題を出題し、コースでの学習の前提となる思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。

面接では、山梨県の教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

各コースの育成目標と求める能力・人物像

○幼小発達教育コース

<育成目標と求める能力・人物像>

本コースでは、人間の生涯発達全般を見通しつつ、特に就学前から小学校段階の子どもの発達と教育についての深い識見を持つだけでなく、子どもとともに、また他者とともに学びながら、今日的な教育課題の解決に挑戦していける教員の養成を目指しています。心理学、教育学そして幼児教育学などに強い関心があり、幼稚園や小学校の教員などを目指す学生を求めています。

<試験区分別の入学者選抜の基本方針>

一般選抜（前期）

前期試験は、大学入学共通テストと個別学力試験、集団面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、集団面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等进行评估します。大学入学共通テストでは6教科、個別学力試験では英語を課すこととし、修学に必要な知識・思考力・表現力等进行评估します。

集団面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

一般選抜（後期）

後期試験は、大学入学共通テストと面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等々を評価します。大学入学共通テストは3～4教科の選択とし、特に重点的に学習した教科の基礎学力を評価します。

面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（教科別推薦入試）

本選抜では、小論文と面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

小論文では、幼児教育や児童・生徒の発達過程に関わる論題を出題し、コースでの学習の前提となる思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。

面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

○障害児教育コース

＜育成目標と求める能力・人物像＞

本コースでは、高度な教職教養や専門教養を通して障害のある子どものことを深く理解した上で、確かな実践的スキルを駆使して、かつ同僚と協働して、熱意および探究心をもちながらその子どもに働きかけることのできる教員の養成を目指しています。

子どもの心のメカニズムや障害のある子どもが抱える生活上の困難さ、学校教育のあり方などに強い興味や関心があり、特別支援学校や小学校などの教員を目指す学生を求めています。

＜試験区分別の入学選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

前期試験は、大学入学共通テストと個別学力試験、集団面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、集団面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。大学入学共通テストでは6教科、個別学力試験では英語を課すこととし、修学に必要な知識・思考力・表現力等を評価します。

集団面接では、自己表現力や他者理解力、およびコースの教育活動や研究活動への意欲などを総合的に評価します。

一般選抜（後期）

後期試験は、大学入学共通テストと面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。大学入学共通テストは3～4教科の選択とし、特に重点的に学習した教科の基礎学力を評価します。

面接では、自己表現力や他者理解力、およびコースの教育活動や研究活動への意欲などを総合的に評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（教科別推薦入試）

本選抜では、小論文と面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

小論文では、子どもの発達や学校教育などに関する事項について出題し、コースでの学習の前提となる思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。

面接では、自己表現力や他者理解力、およびコースの教育活動や研究活動への意欲などを総合的に評価します。

○言語教育コース

＜育成目標と求める能力・人物像＞

本コースでは、人間の思考・表現・コミュニケーションの基盤である言語の教育を担う教員の養成を目指しています。

1年次では全学共通教育科目および学部共通科目等の一般的な教養を学び、2年次から「国語教育系」「英語教育系」の2つの専門領域に分かれて学びます。

「国語教育系」では、日本語、日本文学（古典・近代）、漢文学、書写・書道、国語科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の国語科や書道の教員を目指す学生を求めています。

「英語教育系」では、英語学、英米文学、英語コミュニケーション、異文化理解、英語科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の英語科の教員を目指す学生を求めています。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

前期試験は、大学入学共通テストと個別学力試験、集団面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、集団面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。大学入学共通テストでは6教科、個別学力試験では国語と英語を課すこととし、修学に必要な知識・思考力・表現力等を評価します。

集団面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

一般選抜（後期）

後期試験は、大学入学共通テストと面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等々を評価します。大学入学共通テストは国語、地歴または公民、外国語の3教科を課し、基礎学力を評価します。

面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（教科別推薦入試）

本選抜では小論文と面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

小論文では、言語や教育に関わる論題を出題し、コースでの学習の前提となる思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。

面接では、コース・系の教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。なお、国語系の志望者に英語教育について質問したり、英語系の志望者に国語教育について質問したりすることはありません。

○生活社会教育コース

＜育成目標と求める能力・人物像＞

本コースでは、人間生活とその基盤となる人間社会を創造していくための豊かな教養と実践的指導力を持つ教員の養成を目指しています。

1年次では全学共通教育科目および学部共通科目等の一般的な教養を学び、2年次から「社会科教育系」「家政教育系」の2つの専門領域に分かれて学びます。

「社会科教育系」では、法律学政治学・社会学経済学・哲学倫理学・歴史学・地理学及び社会科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の社会科の教員を目指す学生を求めています。

「家政教育系」では、食物学、被服学、住居学、保育学、家庭経営学及び家庭科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の家庭科の教員を目指す学生を求めています。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

前期試験は、大学入学共通テストと個別学力試験、集団面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、集団面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

大学入学共通テストでは5～6教科、個別学力試験では英語を課すこととし、修学に必要な知識・思考力・表現力等を評価します。

集団面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

一般選抜（後期）

後期試験は、大学入学共通テストと面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

大学入学共通テストは3～4教科の選択とし、特に重点的に学習した教科の基礎学力を評価します。

面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（教科別推薦入試）

本選抜では、小論文と面接を志望する系（社会・家政）ごとに課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

小論文は、社会科教育系では私たちの社会と教育に関わる論題を、家政教育系では家庭生活と教育に関わる論題を出題し、コース・系での学習の前提となる思考力・判断力・表現力等を総合的に評価します。

面接では、コース・系の教育活動に対する理解や、教職への意欲・適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（専門・総合学科推薦入試）

家政教育系で行う本選抜では、小論文と面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

小論文では、家庭生活と教育に関わる論題を出題し、家政教育系での学習の前提となる思考力・判断力・表現力等を総合的に評価します。

面接では、家政教育系の教育活動に対する理解や、高等学校での家庭科に関する学習、教職への意欲・適性を評価します。

○科学教育コース

＜育成目標と求める能力・人物像＞

本コースでは、自然科学を理解するための総合的な視野と、理数系の深い専門知識を持った教員の養成を目指しています。

1年次では全学共通教育科目および学部共通科目等の一般的な教養を学び、2年次から「数学教育系」「理科教育系」「技術教育系」の3つの専門領域に分かれて学びます。

「数学教育系」では、代数学、幾何学、解析学、確率・統計、数学科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の数学の教員を目指す学生を求めています。

「理科教育系」では、物理学、化学、生物学、地学、理科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の理科の教員を目指す学生を求めています。

「技術教育系」では、木材加工学、金属加工学、機械工学、電気・電子工学、情報工学、農学、技術科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校の技術の教員を目指す学生を求めています。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

前期試験は、大学入学共通テストと個別学力試験、集団面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、集団面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等进行评估します。大学入学共通テストでは5教科、個別学力試験では数学と理科を課すこととし、修学に必要な知識・思考力・表現力等进行评估します。

集団面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

一般選抜（後期）

後期試験は、大学入学共通テストと面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等进行评估します。

大学入学共通テストは5教科を課し、基礎学力进行评估します。

面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（教科別推薦入試）

本選抜では、小論文と面接を志望する系（数学・理科・技術）ごとに課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等进行评估します。

小論文では、科学(数学または理科または技術)と教育に関わる論題を出題し、コース・系での学習の前提となる思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。

面接では、コース・系の教育活動に対する理解、入学後の教育研究に対する意欲や教科(数学または理科または技術)に関する資質・能力进行评估します。

学校推薦型選抜Ⅰ（専門・総合学科推薦入試）

技術教育系で行う本選抜では、口頭試問を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のため申告書」、「学校長推薦書」の記載内容を選抜資料として活用し、口頭試問の際の基礎資料として用います。志望理由については、ア

ドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

口頭試問では、コース・技術教育系での学習の前提となる知識・技能・思考力・判断力・表現力を有しているかを判定するための学力評価（「英語」、「数学」、「理科」及び「課題研究」に関する内容を含みます。）を行うとともに、コース・系の教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

○芸術身体教育コース

<育成目標と求める能力・人物像>

本コースでは、人間の根源的な営みともいえる芸術活動と身体活動を通して、芸術文化や心身の発育・発達に関する内容を学びながら、専門的かつ実践的な能力を持った教員の養成を目指しています。

1年次では全学共通教育科目および学部共通科目等の一般的な教養を学び、2年次から「音楽教育系」「美術教育系」「保健体育系」の3つの専門領域に分かれて学びます。

「音楽教育系」では、声楽、器楽、作曲・編曲、音楽学、音楽科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の音楽の教員を目指す学生を求めています。

「美術教育系」では、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史、美術科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の美術の教員を目指す学生を求めています。

「保健体育系」では、体育実技（体操、陸上、球技、水泳など）、体育理論、保健、保健体育科教育学に強い関心があり、小学校の教員や中学校、高等学校の保健体育の教員を目指す学生を求めています。

<試験区分別の入学者選抜の基本方針>

一般選抜（前期）

前期試験は、大学入学共通テストと実技検査、集団面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「活動実績報告書」（実技検査で体育実技を選択する志願者のみ）の記載内容を選抜資料として活用し、集団面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

大学入学共通テストは6教科、実技検査は音楽実技、美術実技、体育実技の中から志願者が選んだいずれか一つを課し、基礎的な知識・技能を評価します。

集団面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

一般選抜（後期）

後期試験は、大学入学共通テストと実技検査、面接を課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「活動実績報告書」（実技検査で体育実技を選択する志願者のみ）の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

大学入学共通テストは3～4教科の選択とし、特に重点的に学習した教科の基礎学力を評価します。

実技検査は、音楽実技、美術実技、体育実技の中から志願者が選んだいずれか一つを課し、基礎的な知識・技能を評価します。

面接では、コースの教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ（教科別推薦入試）

本選抜では、実技検査と面接を志望する系（音楽・美術・保健体育）ごとに課します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」、「学校長推薦書」、「活動実績報告書」（実技検査で体育教育系を選択する志願者のみ）の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。志望理由については、アドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を評価します。

実技検査は、音楽教育系、美術教育系、体育教育系の中から志願者が選んだいずれか一つを課し、コース・系での学習の前提となる知識・技能を評価します。

面接では、コース・系の教育活動に対する理解や、入学後の教育研究に対する意欲や適性を評価します。

【医学部】

育成目標 【国民の健康を支える医療人の育成】

病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の修得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する人材及び疾患の原因解明や治療法の開発に寄与できる研究者の養成を目指します。

求める資質・能力・人物像

医学部では、「国民の健康を支える医療人の育成」を行うため、次のような資質と能力を持つ人材を求めています。

- ・ 単に病気やけがを治すだけでなく、一人一人に最良の医療を提供するために、努力を惜しまない人
- ・ 健康問題に興味があり、地域医療や国際医療に貢献したいと考えている人
- ・ 疾患の原因を解明し、治療法を開発したいと考えている人
- ・ 深い人間愛と広い視野を持ちコミュニケーション能力が高い人

○医学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

医学科では、国民の健康を支える医学・医療に将来、携わることへの強い意志と深い関心を持ち、総合的理解力、論理的思考力、問題解決能力を備え、他者とのコミュニケーション及び自己表現に優れるとともに、自己啓発のために生涯にわたって学ぶことを継続する意欲を持つ人を求めています。

＜入学前に学習しておくことが期待される内容＞

医学部で幅広い医学的知識を学習するために必要な基礎学力を身につけておいてください。特に、大学受験の理科科目として物理学、化学を選択した学生であっても生物学の基礎を修得していることを望みます。外国語の修得には時間がかかりますので、入学前から常に英語力の向上を目指してください。また、多彩な人との豊かな人間関係を築くこと、様々な組織の中でチームワークによる活動の経験を持つことによって、医療人に求められる高い倫理観、信頼される人間性、広い社会的視野を涵養することを心掛けてください。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（後期）

後期試験では、出願資料に加え第1段階選抜合格者に面接を課します。これにより情操、創造力や適応力など人間性の観点からの選考も行います。また、調査書など各教科の学習記録により、医学を学ぶに足る基礎学力が定着しているかどうかを評価します。これらの選考により将来人間性豊かな医師または独創的な医学研究者に成長しうる学生であるかどうかを判断します。最終選抜は以上の結果に加え、大学入学共通テストの成績ならびに個別学力試験から総合的に行います。

なお第1段階選抜は大学入学共通テストの成績により実施し、募集人員の約10倍を合格者とします。ただし、志願者が募集人員の10倍を超えない場合は、第1段階選抜を実施しません。

学校推薦型選抜Ⅱ

本選抜では、出願資料に加え、将来本学を含む山梨県内での医療活動に従事する意欲の有無やその理由も合否判定の材料とします。また第1段階選抜合格者に面接を課します。これにより情操、創造力や適応力など人間性の観点からの選考を行います。さらに、調査書など各教科の学習記録により、医学を学ぶに足る基礎学力が定着しているかどうかを評価します。出願資料のうち「多面的・総合的な評価のための申告書」は、アドミッションポリシーの理解度、大学で学びたいこと具体性、将来展望の明確性などを測る目的で主に面接時の資料として活用します。学校長推薦書からは学力のみならず、高校生活での主体的活動の有無や積極性など人間性の豊かさも評価します。これらの選考により将来人間性豊かな医師または独創的な医学研究者に成長しうる学生であるかどうかを総合的に判断します。

なお第1段階選抜は大学入学共通テストの成績により実施し、募集人員の約1.5倍を合格者とします。ただし、志願者が募集人員の1.5倍を超えない場合は、第1段階選抜を実施しません。

○看護学科

<育成目標と求める能力・人物像>

看護学科は、生命の尊厳を基本とし、看護の倫理性を身につけ、深い人間愛と広い視野を持つ看護専門職及び看護学研究者の育成を目的としています。そのため看護学科では、人間への深い関心と優れたコミュニケーション能力を備え、多様な健康問題を科学的に判断し解決できる能力を有し、保健・医療・福祉に貢献するために継続的に努力できる人材を求めています。

<入学前に学習しておくことが期待される内容>

看護学科入学までに高等学校で学ぶ数学、理科、国語、英語、社会の内容を十分理解していることが必要です。加えて、主体的に学習する態度を身につけ、多様な世代の人々と豊かな人間関係を築き、国内外の社会情勢の変化に眼を向けてください。

<試験区分別の入学者選抜の基本方針>

一般選抜（前期）

前期試験では、出願資料に加え、受験者全員に面接を課します。これにより、情操、創造力や適応力など人間性の観点からの選考も行います。また、調査書など各教科の学習記録により、看護学を学ぶに足る基礎学力が定着しているかどうかを評価します。これらの選考により、将来人間性豊かな看護職に成長しうる学生であるかどうかを判断します。

選抜は以上の結果に加え、大学入学共通テストの成績ならびに小論文から総合的にを行います。

一般選抜（後期）

後期試験では、出願資料に加え、受験者全員に面接を2回課します。これにより、情操、創造力や適応力など人間性の観点からの選考も行います。また、調査書など各教科の学習記録により、看護学を学ぶに足る基礎学力が定着しているかどうかを評価します。出願資料のうち「多面的・総合的な評価のための申告書」は、アドミッションポリシーの理解度、大学で学びたいこと具体性、将来展望の明確性などを測る目的で、主に面接時の資料と

して活用します。これらの選考により、将来人間性豊かな看護職に成長しうる学生であるかどうかを判断します。

選抜は以上の結果に加え、大学入学共通テストの成績から総合的に行います。

学校推薦型選抜Ⅰ

本選抜では、出願資料に加え、受験者全員に面接を課します。これにより、情操、創造力や適応力など人間性の観点からの選考を行います。また、調査書など各教科の学習記録により、看護学を学ぶに足る基礎学力が定着しているかどうかを評価します。出願資料のうち「多面的・総合的な評価のための申告書」は、アドミッションポリシーの理解度、大学で学びたいことの具体性、将来展望の明確性などを測る目的で主に面接時の資料として活用します。学校長推薦書からは学力のみならず、高校生活での主体的活動の有無や積極性など人間性の豊かさも評価します。これらの選抜により将来人間性豊かな看護職に成長しうる学生であるかどうかを総合的に判断します。

選抜は以上の結果に、小論文によるバランスのとれた判断力、論理的構想力、表現力等の評価を加え総合的に行います。

【工学部】

育成目標 【未来世代を思いやるエンジニアリング教育】

本学の入学者受け入れ方針に加え、基礎的・専門的学力、論理的な表現力やコミュニケーション能力を修得するとともに、工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に負っている責任を理解し、科学的知見と技術を総合して社会的課題を解決する能力、すなわちエンジニアリングデザイン能力を身につけたグローバルに活躍できる人材を養成します。

求める資質・能力・人物像

工学部では、工学系技術者となって社会に貢献しようとする意欲をもつ、次のような人を求めています。

- ・ 4年間学び抜くことができる学力と強い意志を有していること
- ・ 各学科で学ぶ内容に強い興味と適性を有していること
- ・ 学科別に提示する数学、理科の基礎力を有していること
- ・ 国語、地歴公民など高校で履修する幅広い科目により人間や社会に関する基礎的な知識や興味を有すること
- ・ 書かれた文章を理解し、利用できること。また、学んだことや自らの考えを論理的な文章で表現できること
- ・ 国際的なコミュニケーション能力の基本として基礎的な英語の語学力を有し、入学後も積極的に学ぶ意欲を有すること
- ・ 実験や観察の計画や実行に積極的に取り組んだ経験があること

○機械工学科

<育成目標と求める能力・人物像>

人間と機械との結びつきを理解し、自然と社会の反映さらに人類の幸福に貢献できる技術者を育成します。具体的には数学・物理などの数理知識を自動車・航空・宇宙産業や医工学分野さらに動力エネルギー分野などへと応用する技術を習得します。

そのために次のような人材を求めます。

- ・ 数学・理科・英語の基礎学力があり、なおかつ学習意欲がある人。理科の中では特に物理を重視します。
- ・ 実験などを通して身の周りの自然現象の観察に興味のある人
- ・ 人と機械とが関わるものづくりに興味のある人
- ・ 独創的な発想で機械の技術革新をしようとする人

<入学前に学習しておくことが期待される内容>

高等学校で履修した科目、とりわけ数学、物理、英語をしっかりと理解していることが必要です。機械工学は物理を基礎として、また数学を駆使して構築されている工学分野です。数学、物理の本質を理解するとともに、また国際的に活躍できる人材となるために不可欠な英語の素養も身につけてくることを期待しています。

<試験区分別の入学者選抜の基本方針>

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査を課す学力重視の入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学と理科を課すこととします。

一般選抜（後期）

調査書と多面的・総合的な評価のための申告書の提出に加え、面接を課すことで多様な資質能力を有した学生を求める入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。多面的・総合的な評価のための申告書は、アドミッションポリシーを理解し大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等々を評価し、面接の資料としても活用します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）のみを課すこととします。

総合型選抜Ⅱ

提出書類と面接により第一段階選抜を実施し、最終選抜には大学入学共通テストを用います。

調査書については、各教科・科目等の学習の記録の中で、特に数学・理科・英語の基礎学力の定着の度合いを評価し、指導上参考となる諸事項に記載された学科への関連の内容を参考とします。多面的・総合的な評価のための申告書はアドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等々を評価します。これらの提出書類は面接用事前レポートと同様に面接の際の基礎資料として用います。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）を課すこととします。

○電気電子工学科

<育成目標と求める能力・人物像>

電気電子工学は材料・素子から、素子を組み合わせた回路、複数の回路を結合した装置、装置やソフトウェアを統合したシステムに至るまで、様々な対象を取り扱う幅広い学問分野であり、その成果はほぼ全ての社会基盤に必要とされています。本学科は、電気電子工学を駆使して社会で活躍する技術者、研究者を育成することをミッションとしており、次のような人材を求めます。

- ・ 電気電子工学に強い興味と関心を持ち、将来は、太陽光発電を含む発電システム、スマートフォンなどの ICT 機器・通信システム、医療機器、自動運転車や電気自動車などの交通システム、鉄道などの社会インフラ、またこれら全てを支える大規模集積回路の研究、設計、整備、運用など、様々な分野と立場で活躍する意欲をもつ人
- ・ 数学、理科、英語の基礎学力があり、さらに深く学ぶ意欲がある人。理科のなかでは特に物理を重視します。

<入学前に学習しておくことが期待される内容>

高等学校で履修した数学、理科、英語、国語、地歴公民で学習した内容がしっかり理解できていることを望んでいます。特に、物理と数学の本質を理解するとともに、電気、磁気、光、電子に関する物理現象に興味を持って勉強してきてください。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査を課す学力重視の入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学と理科を課すこととします。

一般選抜（後期）

調査書と多面的・総合的な評価のための申告書の提出に加え、面接を課すことで多様な資質能力を有した学生を求める入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。多面的・総合的な評価のための申告書は、アドミッションポリシーを理解し大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等の評価し、面接の資料としても活用します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）のみを課すこととします。

総合型選抜Ⅱ

提出書類と面接、小論文により第一段階選抜を実施し、最終選抜には大学入学共通テストを用います。

調査書については、各教科・科目等の学習の記録の中で、特に数学・理科（特に物理）・英語の基礎学力の定着の度合いを評価し、指導上参考となる諸事項に記載された学科への関連の内容を参考とします。多面的・総合的な評価のための申告書はアドミッションポリシーを理解し、大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等の評価し、面接の際の資料としても用います。小論文と面接では、数学と物理の基礎学力、論理的な説明力を評価します。学力評価として、大学入学共通テスト（4教科6科目）を課すこととします。

○コンピュータ理工学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

コンピュータ理工学を学んだ技術者は、スマートフォンなどの情報機器やネットワークシステム、ソフトウェアの開発・運用管理、情報通信系のサービス、自動車や電機などの製造業などで活躍しています。また、人工知能技術を駆使したデータ解析の技術者は、いまや情報分野に限らず幅広い分野で必要不可欠な人材です。本学科は、そのような幅広い分野で活躍できる技術者、研究者を育成します。そのために、次のような人材を求めます。

- ・ 情報科学技術や大規模ソフトウェアの設計開発、ものづくりに対する強い好奇心をもち、将来、専門知識・技術を備えた情報処理技術者・研究者になりグローバルに活躍することを目指している人
- ・ 数学、理科、国語及び英語の基礎的な学力を有する人

＜入学前に学習しておくことが期待される内容＞

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、地歴公民の内容を十分に理解していることが必要です。コンピュータ理工学は、情報化社会の基盤と密接に関連しています。したがって、情報システムや機器の設計・解析手法を学ぶための理工系の素養の他に、国内外の文

化や慣習、社会情勢などに対する知識や理解とともに日本語や英語によるコミュニケーション能力を備えていることを期待しています。

＜試験区分別の入学選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査を課す学力重視の入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学と理科を課すこととします。

一般選抜（後期）

調査書と多面的・総合的な評価のための申告書の提出に加え、面接を課すことで多様な資質能力を有した学生を求める入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。多面的・総合的な評価のための申告書は、アドミッションポリシーを理解し大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等の評価し、面接の資料としても活用します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）のみを課すこととします。

総合型選抜Ⅰ

調査書では、基礎的学力を備えているかを判定するとともに、課外活動や取得した資格等により向上心や主体性などを評価します。多面的・総合的な評価のための申告書では、本学のアドミッションポリシーへの理解、向上心や主体性、協働性などを重視するとともに、本学科で学ぶ意欲や、将来への展望が明確であることを確認します。志願者評価書では、本学アドミッションポリシーに示される能力及び人物としての特性を備えているかを総合的に判断します。調査書や多面的・総合的な評価のための申告書は面接の際の資料としても用います。小論文には数学、理科（物理）、外国語（英語）の基礎学力を問う設問を含み、学力評価を行います。

総合型選抜Ⅱ

提出書類により第一段階選抜を実施し、最終選抜には大学入学共通テストを用います。調査書については、基礎的学力を備えているかを判定するとともに、課外活動や取得した資格等により向上心や主体性などを評価します。多面的・総合的な評価のための申告書では、本学のアドミッションポリシーへの理解、向上心や主体性、協働性などを重視するとともに、本学科で学ぶ意欲や、将来への展望が明確であることを確認します。学力評価として、大学入学共通テスト（教科・科目数は型により異なる）を課すこととします。

○情報メカトロニクス工学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

産業・民生用ロボットなど近年の電子機械製品は機械・電気・情報の3分野の技術の融合体であり、いずれの技術が欠けても成り立ちません。本学科では、これら3分野にまたがる知識や技術を利用して、社会で求められている電子機械製品の開発などの実践的な課題を解決できる技術者を育成します。そのために、次のような人材を求めます。

- ・ コンピュータで制御された電子機械製品の研究や開発をはじめとした幅広い分野に興味を持ち、社会で求められている技術や製品の実現に意欲を持っている人。
- ・ 数学、理科、英語の基礎学力があり、なおかつ学習意欲がある人。理科のなかでは特に物理を重視します。

＜入学前に学習しておくことが期待される内容＞

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、地歴公民の内容を十分理解していることが必要です。また情報メカトロニクス工学科は、電気・情報・機械の幅広い分野に関連しています。従って、分野を問わず最先端技術に興味を持つと共に、その基礎となる物理、数学などの本質を理解するようにしてください。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査を課す学力重視の入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学と理科を課すこととします。

一般選抜（後期）

調査書と多面的・総合的な評価のための申告書の提出に加え、面接を課すことで多様な資質能力を有した学生を求める入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。多面的・総合的な評価のための申告書は、アドミッションポリシーを理解し大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等の評価し、面接の資料としても活用します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）のみを課すこととします。

総合型選抜Ⅱ

提出書類と面接、小論文により第一段階選抜を実施し、最終選抜には大学入学共通テストを用います。

調査書については、各教科・科目等の学習の記録の中で、主に数学・理科・英語の基礎学力の定着の度合いを評価し、指導上参考となる諸事項に記載された学科への関連の内容を参考とします。多面的・総合的な評価のための申告書については、アドミッションポリシーでしめした育成目標に必要な能力・資質を判断し、志願者評価書の客観的評価により協働にかかわる学習態度を判断します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）を課すこととします。

○土木環境工学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

土木環境工学系の技術者は、国土交通省をはじめとする国家公務員、都道府県、市町村の地方公務員、総合建設業の技術者、設計コンサルタントとして、社会資本の整備や維持管理に携わっています。また、同技術者には道路、運輸等の公共企業、電力、ガス、通信等の公益企業、環境衛生エンジニアリング、住宅建設と、幅広い活躍の場があります。本学科では、

このような分野で活躍する「土木工学と環境工学に関する幅広い基礎知識・技術を併せ持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者」を育成するため、以下のような人材を求めています。

- ・ 自然環境と調和した社会基盤整備の知識・技術を修得し、災害に強く、環境に配慮した安全で快適な地域づくり・まちづくりを通じて、社会に貢献したいという意思のある人
- ・ 防災・減災、都市環境、社会資本の維持管理など、土木環境工学の最先端について学びたいという意思のある人

＜入学前に学習しておくことが期待される内容＞

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、地歴公民の内容を十分に理解していることが必要です。土木環境工学は自然や社会との接点が大い分野です。解析や設計に直接通じる数学や物理の学力だけでなく理科全般の素養と、自分の言葉で社会とコミュニケーションするために、国語、英語、地歴公民の素養を身につけていることを期待しています。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査を課す学力重視の入試を行います。調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学と理科を課すこととします。

一般選抜（後期）

調査書と多面的・総合的な評価のための申告書の提出に加え、面接を課すことで多様な資質能力を有した学生を求める入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。多面的・総合的な評価のための申告書は、アドミッションポリシーを理解し大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等の評価し、面接の資料としても活用します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）のみを課すこととします。

総合型選抜Ⅱ

提出書類と面接、小論文により第一段階選抜を実施し、最終選抜には大学入学共通テストを用います。

調査書については、各教科・科目等の学習の記録において、バランスの良い基礎学力の定着の度合いを評価し、指導上参考となる諸事項において、学科への関連の内容の記載を参考とします。多面的・総合的な評価のための申告書はアドミッションポリシーを理解し、学科で学びたいことや、将来への展望が明確であるか等を段階別に評価し、志願者評価書はこれを補完するものとして活用します。これら提出書類は面接の資料としても用います。小論文は講義を受講し、その内容を要約する方式で実施します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）を課すこととします。

○応用化学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

応用化学を学修した卒業生は、材料・化学メーカー、エネルギー関連、電気・電子、機械、自動車、製薬、食品、化粧品、装置製造産業、環境分析など様々な分野における新規材料開発および計測などに携わることができます。本学科では、化学の専門知識と実験技術を修得し、新素材・エネルギー・環境等の課題を解決できる技術者・研究者を育成します。そのために、次のような人材を求めます。

- ・ 化学に対する強い好奇心をもち、新素材・高機能物質の開発やエネルギー・環境等の問題解決に意欲のある人
- ・ 化学、物理、数学、英語の基礎的な学力を有する人

＜入学前に学習しておくことが期待される内容＞

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、地歴公民の内容を十分に理解しておくことが必要です。化学はもちろんのこと、数学や物理の基礎学力は実験結果の解析に必要となります。また、外国の専門誌を読んだり、レポートを作成したりするためには、英語や国語の力が必要です。化学だけでなく化学以外の科目やそれらと化学との境界領域にも興味をもって勉強しておくことを期待します。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査を課す学力重視の入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学と理科を課すこととします。

一般選抜（後期）

調査書と多面的・総合的な評価のための申告書の提出に加え、面接を課すことで多様な資質能力を有した学生を求める入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。多面的・総合的な評価のための申告書は、アドミッションポリシーを理解し大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等を評価し、面接の資料としても活用します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）のみを課すこととします。

総合型選抜Ⅰ

調査書では、本学科における修学が可能な基礎学力を備えるかを評価すると同時に面接の資料とします。多面的・総合的な評価のための申告書では、化学に対する強い興味と特に化学を専攻する希望を持つかを評価します。学力評価として、化学に関する口頭試問あるいは化学グランプリの成績、ならびに化学実験に関する試問により、化学に関する基礎知識ならびに化学実験に関する知識・技能や興味を評価します。

総合型選抜Ⅱ

調査書と面接により第一段階選抜を実施し、最終選抜には大学入学共通テストと多目的・総合的な評価のための申告書を用います。

調査書では、本学科における修学が可能な基礎学力を備えるかを評価すると同時に面接の資料とします。多目的・総合的な評価のための申告書では、化学に関する知識と技術を生かして社会に貢献しようとする意欲を持ち、本学科の教育課程を履修できる学習習慣を備えるかを評価します。学力評価として大学入学共通テスト（3教科5科目のうち「化学」ほか2科目）を課すこととします。

○先端材料理工学科

<育成目標と求める能力・人物像>

材料科学は、原子・分子レベルの操作で新材料を創り、新たな機能を生み出すことを目的とした学問であり、科学技術、社会が変化しても持続的な就業能力を持った人材を育成します。そのために次のような人材を求めます。

- ・ 物理と化学の知識を合わせ持ち、原子・分子レベルの操作で先端材料を作り、新機能を生み出すことによって新しい社会を築いていこうとする意欲ある人
- ・ 数学・理科に関する諸々の話題、疑問点を追究する強い好奇心を持ち、それを生かした社会貢献に意欲的な人

<入学前に学習しておくことが期待される内容>

高等学校で学ぶ数学そして物理と化学を理解していること、それ以前にそれらが好きであることが重要です。研究論文や技術報告書を読む、あるいは自ら執筆するためには英語や国語の力、特に論理を組み立てていく能力も必要です。入学時にこれらをすべて備えていることを必ずしも要求しませんが、将来の自分のために投資しておくという基本的学習習慣だけは必ず身につけておくことを期待します。

<試験区分別の入学者選抜の基本方針>

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査を課す学力重視の入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学と理科を課すこととします。

一般選抜（後期）

調査書と多面的・総合的な評価のための申告書の提出に加え、面接を課すことで多様な資質能力を有した学生を求める入試を行います。

調査書では、基礎学力の定着を学習の記録により評価し、アドミッションポリシーの観点からの評価や志望する学科への適性を、学習の記録と指導上参考となる諸事項により判定します。多面的・総合的な評価のための申告書は、アドミッションポリシーを理解し大学で学びたいことや将来への展望が明確であるか等々を評価し、面接の資料としても活用します。学力評価として、大学入学共通テスト（5教科7科目）のみを課すこととします。

総合型選抜Ⅱ

提出書類と面接、小論文により第一段階選抜を実施し、最終選抜には大学入学共通テストを用います。

調査書では、高校での学習状況と面接等の結果の整合性を確認します。多面的・総合的な評価のための申告書では、学習意欲等の学力試験によって測ることができない能力や態度を評価し、志願評価書でその内容との整合性および本学進学に対する意志を確認します。学力評価として大学入学共通テスト（5教科7科目）を課すことに加え、数学・物理・化学・英語に関する課題が与えられ小論文と面接発表資料を作成し、プレゼンテーションと質疑応答を行うことで基礎学力を評価します。

【生命環境学部】

育成目標 【自然と社会の共生科学の創生】

本学の入学者受け入れ方針に加え、自然と社会の共生科学に基づき、広範な知識を統合し、問題を発見し解決する能力を身につけ、持続可能な地域社会の繁栄に貢献できる人材の育成を目指します。

文理融合の視点から生命・食・環境・経営などの諸課題を多角的に分析し、その解決に向けて実践的に取り組むことのできる教育・研究を行います。

求める資質・能力・人物像

生命環境学部では、「自然と社会の共生科学の創生」を目指し、次のような資質と能力を持つ人材を求めています。

- ・ 高等学校で履修する各教科・科目をまんべんなく学修し、基礎知識を身につけていること
- ・ 自然環境の成り立ちや生物の多様性などを理解するために、理科（物理、化学、生物、地理）や数学、情報など、自然科学や数理科学の基礎学力を身につけていること
- ・ 講義を理解し、レポート等を作成し発表するために、様々な文献を読み込む社会（地理、歴史、公民）や文書を作成する国語といった人文社会科学の基礎学力を有すること
- ・ グローバルな問題に取り組むために、海外の文献を読み解くうえで必要な基礎的な英語力を有すること
- ・ 実験やフィールド調査を自主的かつ継続的に取り組むことのできる行動力を有すること
- ・ 教員や先輩、友人、留学生等と積極的に対話できるコミュニケーション力を有すること

○生命工学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

バイオインフォマティクス、ナノバイオテクノロジー、ゲノミクスをはじめとする先端バイオを学ぶことにより、食品生産、健康増進、再生医学、バイオエネルギー、環境保全などに関する新しい技術を創出する能力を身につけ、各分野の技術者や研究者を養成することを目指しています。そのために、次のような人材を求めます。

- ・ バイオサイエンスを理解し、バイオテクノロジーを身につけるために、生物を中心とした学問領域に加え、多様な物質を扱う化学に関する知識を有していること
- ・ 論理的思考力を養うため、数学の素養を身につけていること
- ・ 入学試験で課している科目について、十分な学力を有していること

＜入学前に学習しておくことが期待される内容＞

バイオサイエンスを理解し、バイオテクノロジーを身につけるために、生物を中心とした学問領域に加え、多様な物質を扱う化学に関する知識が必要です。論理的思考力を養うため、数学の素養も望んでいます。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査（小論文）において学力重視の入試を行います。

大学入学共通テストでは5教科7科目を課し、小論文では記述・論述の問題によって論理的思考力や判断力を判定します。

アドミッションポリシーの観点から学科との適性を総合的に評価するために、「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用します。

一般選抜（後期）

大学入学共通テストと面接において多様な資質を重視した入試を行います。

大学入学共通テストでは5教科7科目を課し、教科・科目に係る基礎学力を評価します。

面接では、「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」をアドミッションポリシーへの適性評価に活用します。さらに、入学後の教育研究に対する意欲や適性を判断するために、口頭試問も含めて評価を行います。

総合型選抜Ⅱ

提出書類をもとに面接を実施し、最終的には大学入学共通テストで5教科7科目において基礎学力を評価します。

「調査書」では、各教科・科目等の学習記録において、基礎学力の定着度合いを評価します。

「多面的・総合的な評価のための申告書」及び「志願者評価書」では、アドミッションポリシーに適合した学力の3要素を身につけているかを総合的に評価します。

面接では、アドミッションポリシーへの適性と入学後の教育研究に対する意欲や適性を判断するために、口頭試問も含めて評価を行います。

○地域食物科学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

バイオテクノロジーを駆使した果樹や野菜などの農産物の栽培、食品製造の科学的理解、栄養・有用成分の解析と利用、ワイン製造技術などを課題に食物科学や農学の知識・技術を食糧問題の解決に生かす人材を養成することを目指しています。そのために、次のような人材を求めます。

- ・ 本学科の教育研究の内容を理解するための基礎となる授業科目（生物、化学、物理学、数学、等）を十分に理解できていること
- ・ 自らの考えを論理的に伝える基礎として、高等学校で学ぶ国語・英語を身につけていること
- ・ 食料生産・利用あるいはワイン製造に関する問題解決に向けて、主体的に粘り強く自己研鑽につとめる熱意と実行力があること
- ・ 本学科で学んだことを活かして地域社会で活躍したいという目的意識と向上心があること

＜入学前に学習しておくことが期待される内容＞

食物生産あるいはワイン製造に関する課題を解決するためには、原料の生産・加工・利用等を含む総合的な知識が必要です。したがって、高等学校で学ぶ化学・生物などの理科学科目を十分に理解できていることを望んでいます。また、自らの考えを論理的に伝える基礎として、高等学校で学ぶ国語・英語を身につけておくことを期待しています。

＜試験区分別の入学者選抜の基本方針＞

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査（小論文）において学力重視の入試を行います。

大学入学共通テストでは5教科7科目を課し、小論文では記述・論述の問題によって論理的思考力や判断力を判定します。

アドミッションポリシーの観点から学科との適性を総合的に評価するために、「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用します。

一般選抜（後期）

大学入学共通テストと面接において多様な資質を重視した入試を行います。

大学入学共通テストでは5教科7科目を課し、教科・科目に係る基礎学力を評価します。

面接では、「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」をアドミッションポリシーへの適性評価に活用します。さらに、入学後の教育研究に対する意欲や適性を判断するために、口頭試問も含めて評価を行います。

総合型選抜Ⅱ

提出書類をもとに面接を実施し、最終的には大学入学共通テストで5教科7科目において基礎学力を評価します。

「調査書」では、各教科・科目等の学習記録において、基礎学力の定着度合いを評価します。

「多面的・総合的な評価のための申告書」及び「志願者評価書」では、アドミッションポリシーに適合した学力の3要素を身につけているかを総合的に評価します。

面接では、アドミッションポリシーへの適性と入学後の教育研究に対する意欲や適性を判断するために、口頭試問も含めて評価を行います。

○環境科学科

＜育成目標と求める能力・人物像＞

生物資源の持続的な生産を支える土壌、水、大気や生態系に関する専門知識を学ぶことによって、自然環境と共生する持続可能な社会の創生に貢献できる人材を養成します。そのために、次のような人材を求めます。

- ・ 自然環境の成り立ちを理解するために必要な理科（物理、化学、生物、地学）の基礎学力を備えていること
- ・ 論理的な思考を行う上で必要な数学の基礎学力を備えていること
- ・ 他者とコミュニケーションや自身の考えを的確に伝えるために必要な国語や外国語の素養を有していること
- ・ 環境問題を解決するために不可欠な社会系科目（地理歴史や公民）に対する理解があること
- ・ 自然と人間社会との共生に強い関心があり、本学科で学んだことを活かして持続可能な社会の創生に貢献したいという意欲があること

<入学前に学習しておくことが期待される内容>

高等学校で履修した数学や情報、物理、化学、生物、地学といった理系科目に加え、自分の言葉で他者とコミュニケーションをとるための国語や外国語の素養が身につけていることを望んでいます。さらに、地理歴史、公民といった社会系科目に対する理解と同時に、環境に対する関心や興味を持っていることを期待しています。

<試験区分別の入学者選抜の基本方針>

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査（小論文）において学力重視の入試を行います。

大学入学共通テストでは5教科7科目を課し、小論文では記述・論述の問題によって論理的思考力や判断力を判定します。

アドミッションポリシーの観点から学科との適性を総合的に評価するために、「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用します。

一般選抜（後期）

大学入学共通テストと面接において多様な資質を重視した入試を行います。

大学入学共通テストでは5教科7科目を課し、教科・科目に係る基礎学力を評価します。

面接では、「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」をアドミッションポリシーへの適性評価に活用します。さらに、入学後の教育研究に対する意欲や適性を判断するために、口頭試問も含めて評価を行います。

総合型選抜Ⅱ

提出書類をもとに面接を実施し、最終的には大学入学共通テストで5教科7科目において基礎学力を評価します。

「調査書」では、各教科・科目等の学習記録において、基礎学力の定着度合いを評価します。

「多面的・総合的な評価のための申告書」及び「志願者評価書」では、アドミッションポリシーに適合した学力の3要素を身につけているかを総合的に評価します。

面接では、アドミッションポリシーへの適性と入学後の教育研究に対する意欲や適性を判断するために、口頭試問も含めて評価を行います。

○地域社会システム学科

<育成目標と求める能力・人物像>

経済・経営・行政に強い関心をもち、経済・経営・政策に関する社会科学および数学的な見方や考え方を学び、国際的視野をもって、観光や食をはじめとする産業創造等を通し地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を養成します。そのために、次のような人材を求めます。

- ・ 普段から新聞や書籍を読み、政治・経済の動向や現代社会の問題に強い関心を持っている人
- ・ さまざまな学問分野の成果を自ら取り込む真摯な姿勢とこれをさまざまな場面で生かす能力がある人
- ・ 科学的知見に基づき地域社会の繁栄の実現に貢献できる人

<入学前に学習しておくことが期待される内容>

日常的に新聞や書籍を読み、政治・経済の動向や現代社会の問題へ関心を寄せる習慣を身につけておくことを望んでいます。

<試験区分別の入学者選抜の基本方針>

一般選抜（前期）

大学入学共通テストと個別学力検査（小論文）を課します。

大学入学共通テストでは5教科6科目又は4教科6科目を課し、教科・科目に係る基礎学力を評価します。

個別学力試験（小論文）では総合的な設問により、知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価します。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、アドミッションポリシーの観点から学科との適性を総合的に評価します。

一般選抜（後期）

大学入学共通テストと面接を課します。

大学入学共通テストでは5教科6科目又は4教科6科目を課し、教科・科目に係る基礎学力を評価します。

面接では、アドミッションポリシーの理解度、入学後の教育研究に対する意欲や適性等を評価します（口頭試問を課す場合があります）。

「調査書」と「多面的・総合的な評価のための申告書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。

総合型選抜Ⅱ

大学入学共通テストと面接を課します。

大学入学共通テストでは5教科6科目又は4教科6科目を課し、教科・科目に係る基礎学力を評価します。

面接では、アドミッションポリシーに適合した学力の3要素を身につけているか、アドミッションポリシーの理解度、入学後の教育研究に対する意欲や適性等を総合的に評価します（口頭試問を課す場合があります）。

「調査書」、「多面的・総合的な評価のための申告書」、「志願者評価書」の記載内容を選抜資料として活用し、面接の際の基礎資料として用います。